

令和6年度第2回東近江市総合教育会議 会議録

日 時 令和6年11月8日（金） 午後1時30分 開会

場 所 東近江市立八日市南小学校

出席者

市長	小椋 正清	副市長	南川 喜代和
副市長	久田 哲哉	教育長	藤田 善久
教育長職務代理者	青地 弘子	教育委員	山本 一博
教育委員	沖田 行司	教育委員	神寄 由紀美
教育部長	中西 美智代	教育部次長	福井 健次
学校教育課長	北川 守一	秘書課長	伊庭 善一
学校問題対策支援室長	小椋 文子	児童生徒成長支援室長	西野 篤
児童生徒成長支援室指導主事	永井 佑子	八日市南小学校長	北崎 裕章
八日市南小学校教頭	青木 勇雄		
八日市南小学校教諭（校内教育支援センター）	桑原 千佳子		
八日市南小学校教諭（日本語指導教室）	高尾 麻由		
（事務局）			
教育総務課長	池元 貴之	教育総務課長補佐	小辰 あつ子

以上21名

開会

教育部長

皆様、こんにちは。本日は八日市南小学校にお越しいただきありがとうございます。今回の総合教育会議は、「校内教育支援センターの取組について」を議題としています。

まず、最初に会議室を出て、「みなみルーム」と呼んでいます校内教育支援センターから見学したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【校内教育支援センター「みなみルーム」見学】

教育部長

皆様、見学いただきありがとうございました。

また、本日は大変お忙しい中、令和6年度 第2回総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。

今回は、まず校内教育支援センターと日本語指導教室を見学していただきました。御意見、御質問、御感想につきましては、後ほど伺いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、ただ今から会議を始めます。

本日司会を務めます教育部長の中西です。

どうぞよろしくお願いいたします。

開会に当たりまして、はじめに小椋市長から御挨拶をいただきます。

市長

皆さん、こんにちは。第2回総合教育会議に御出席いただきまして、ありがとうございます。また、平素から教育行政の推進に御理解と御協力を賜り心から感謝しております。ありがとうございます。

いよいよ、来年は国スポが始まります。東近江市では7種目について開催する予定です。ゴルフだけは、リハーサル大会はないのですが、9月からそれぞれの種目が本番と同じような形で、リハーサル大会を行っています。9月はソフトボールと自転車、10月はサッカーとカヌースプリント、11月は軟式野球、来月はボクシングの大会を開催します。今のところ、大きな事故や問題も起こっておらず、非常に良い大会を迎えられるのではないかと思います。また、大会の連盟、競技役員の方も本番と同じような形で頑張っておられます。

第1回総合教育会議は、6月25日に御園小学校で「魅力ある学校づくり」ということをテーマとして説明を受けました。会議室での会議ばかりではなく、できるだけ現場に行き、現地を見ていただいて、様々な意見交換をしたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

今回、第2回目の総合教育会議は、「校内教育支援センターの取組について」というテーマとしました。昨年度までは、市内に2校しかなかった校内教育支援センターを拡充し、今年度からは八日市南小学校でも実施いたしました。不登校児童生徒の現状と支援、成果あるいは課題について説明をしていただき、教育委員の皆様や校長、現場の先生方との意見交換を行いたいと思っております。限られた時間ではありますが、有効な会議になりますことをお願い申し上げて、御挨拶とさせていただきます。

教育部長

ありがとうございました。

続きまして、藤田教育長から御挨拶をいただきます。

教育長

皆さん、こんにちは。総合教育会議に御出席をいただきありがとうございます。

私は、合併した時に初めて教育委員会の仕事をするようになりました。その時に、八日市南小学校は1,000人規模の学校でしたので、それを分割するよう指示を受け、箕作小学校と八日市南小学校の二つの新しい学校の建設を担当いたしました。今日初めてこの学校を御覧いただいた方もおられるかと思いますが、バリアフリー等いろいろな機能を持ち合わせた学校だと思います。それでも、八日市南小学校のような規模になりますと、教室が手狭になってしまい、今回、別室的な校内教育支援センターを設置しようとする、今まで使っていた教室を空けて工夫しながら、取り組んでいるところです。

先月24日、25日に近畿都市教育長協議会の研修会があり、和歌山県新宮市に行ってきました。その研修会の中で、東近江市の取組を発表する機会をいただきました。発表した内容は、まず、少子化がもたらす東近江市への影響についてです。10年先を見据えますと、市内22校の内、約4分の3である15校が、1学年1クラスになってしまいます。それを見据え、中学校校区を超えての統合が必要だということが考えられるのですが、そのハードルが非常に高いという印象を持っていることを、課題提起という形で発表させていただきました。

次に、先ほど見学していただいた、日本語指導が必要な外国児童生徒等への支援の取組と今回のテーマでもある不登校児童生徒への支援、そして前回のテーマであった特別活動の中

教育長	<p>心とした魅力ある学校づくりについての３点を主に東近江市の取組として発表させていただきました。どの程度伝わったかは分かりませんが、教育長の皆さんにおかれては、熱心に耳を傾けていただき、発表後もいくつか御意見をいただきました。</p> <p>不登校児童生徒の支援について、校内教育支援センターは今年度から始めたもので、まだ、半年しかたっておりませんが、「児童の足が徐々に学校に向くようになってきた」、「教室に少し入れるようになってきた」などの報告を多くの学校からいただくようになっています。特に、八日市南小学校では、大きな成果を発揮していただいていると聞いておりますので、また、後ほど、説明があると思いますが、皆さんから更なる御意見をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
教育部長	<p>本日の出席者はお手元の座席表のとおりです。</p> <p>なお、南川副市長と久田副市長にはオブザーバーとして御出席いただいております。</p> <p>続きまして、本日の資料について確認いたします。</p>
教育総務課長	(資料確認)
教育部長	<p>それでは、協議事項に入ります。</p> <p>「総合教育会議要綱第４条の規定により、市長が総合教育会議の議長となる。」となっておりますが、進行についてはあらかじめ議長から指名を受けた者が務めるとなっておりますので、私が務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の総合教育会議は、「校内教育支援センターの取組について」をテーマにしております。</p> <p>まず、八日市南小学校 北崎校長から挨拶と話題提供をしていただいたあと、学校教育課 学校問題対策支援室 小椋室長からパワーポイントを使って資料の説明をします。</p> <p>資料説明後、先ほど見学していただいた校内教育支援センター、日本語指導教室の感想も含め、皆様から御意見、御質問をいただきたいと思います。</p> <p>会議の最後には、本日の感想をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>限られた時間ではありますが、スムーズに会議が進行できますよう、皆様の御協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、次第に従い進めます。</p> <p>まずは、八日市南小学校 北崎校長から挨拶と話題提供をしていただきます。</p>
八日市南小学校長	(話題提供)
教育部長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは続きまして、学校教育課 学校問題対策支援室 小椋室長から、校内教育支援センターの取組についてパワーポイントで説明してもらいます。</p>
学校問題対策支援室長	(説明)

教育部長	ここまで、見学、北崎校長からの話題提供、学校問題対策支援室から資料の説明をしていただきましたが、皆様から御意見、御質問等があればよろしくお願いします。
沖田委員	日本語指導をされる方は、特別な資格を持っておられるのでしょうか。
八日市南小学校長	日本語指導教室の担当というだけで、特に免許や特別な資格を有しているわけではありません。
沖田委員	今、日本語教師が国家資格となりましたが、キャリアを積まれた方なのでしょうか。
八日市南小学校長	小学校免許を持った者です。文部科学省が出している「日本語指導の手引き」に基づいて指導に当たっています。
市長	どのようにコミュニケーションとっているのですか。日本語と対象児童の母語ができる先生がいるのだと思っていました。
八日市南小学校長	あいさつ程度の簡単な母語については、知っているのですが、対象児童の母語を使ってコミュニケーションをとることは難しいため、日本語でコミュニケーションをとっています。
市長	全く日本語が分からない子供が入室したときには、どのようにコミュニケーションをとるのですか。
八日市南小学校教諭（日本語指導教室）	外国から来た子は、日本語初期指導教室の「いろは教室」で3箇月間、日本語の基礎を教わります。ある程度ひらがなを覚え、また、簡単な日本語が伝わるくらいになってから八日市南小学校へ通うことになります。
教育部長	日本語初期指導教室には、ポルトガル語とベトナム語の通訳がいます。 日本語初期指導教室で学び、日本語能力が一定のレベルに達した子が、学校へ復帰します。
市長	学校へ復帰したときには、先ほどの日本語指導教室で学ぶのですね。
八日市南小学校長	普通教室に入る場合もあります。
教育長	日本語初期指導教室で、日本語能力が一定のレベルまで達したということで、自分の在籍校に戻り、この学校にあるような日本語指導教室や、あるいは各教室で学びがスタートします。しかし、私が課題と思っていることは、在籍校に戻っても、更に日本語が積み上げられないと日本語能力が高まらない、つまり、そういう指導が十分にできないことです。
市長	このような日本語指導教室は、市内に何校設置しているのですか。

教育部長	小学校 22 校の内 14 校にあります。
市長	今日、日本語指導教室にいた児童は、全員八日市南小学校の生徒ですか。
教育部長	そうです。
市長	そうすると、本来は自分の在籍するクラスがあるのですね。毎日、日本語指導教室でレッスンをしているのですか。
教育部長	できれば、1 日 1 時間でも日本語指導教室で勉強をしてもらいたいと思っています。
八日市南小学校教諭（日本語指導教室）	八日市南小学校の日本語指導教室「ひかり教室」に来ている児童は、全員で 16 人おり、日本語能力にも差があります。毎日のように来ている児童もいますが、日本語能力の高い児童に関しては、週に 2 時間程度の場合もあります。
市長	日本語指導教室に通う対象児童やその頻度、時間は、先生が判断するのですか。
八日市南小学校教諭（日本語指導教室）	担任や日本語指導教室の教員、保護者から見て、日本語指導が必要かを判断します。必要と判断した児童の保護者に対して案内をし、了解されましたら通っていただきます。
市長	<p>それでは、全く日本語指導教室に通う必要がない児童もいるのですね。</p> <p>八日市南小学校の外国人児童は、全員で何人いて、日本語指導教室に通わなくてよい児童は何人いるのですか。</p>
八日市南小学校長	外国人児童は、全員で 32 人、その内日本語指導教室に通わなくてよい児童は 16 人です。
市長	日本語指導教室を卒業するという判断は、担任の先生が見極めるのですか。
八日市南小学校教諭（日本語指導教室）	日常の様子を見て、通常学級の授業レベルについていけるくらいになれば、本人に、教室で勉強できるのではないかと声掛けをし、保護者からも大丈夫だと了解が得られれば、担任と相談したうえで教室に戻ってもらいます。
市長	あくまでも、日本語指導教室で教えている先生が、日本語指導教室を卒業するかどうかを判断するのですね。
八日市南小学校長	判断の指標となる D L A という簡単なテストがありますが、それよりも、実際に指導に当たっている先生、そして本人へのヒアリングの中で方向性を定めているのがほとんどだと認識しています。

市長	話は変わりますが、今日、教室にいた児童はほとんど日本語が読めないけれど、全国学力・学習状況調査を受けているのですか。
八日市南小学校長	先ほどの児童は6年生ではありませんが、6年生の児童であれば受けます。
市長	<p>校長として、日本語が読めない児童がテストを受けることに抵抗を感じませんか。</p> <p>日本語を理解できない児童に受けさせることが、良いのかを論議しないといけないのではないかと思います。どのような見解を持っていますか。</p>
八日市南小学校長	事前に本人に確認し、受けられそうであれば受けてもらいます。今年も受ける際には、個別に判断をしました。
市長	これから、外国人はまだ増えていきます。少子化問題に関わって、労働力については外国人に頼らざるを得ませんし、規制も緩和されていくと思います。だから、もっと充実させていかなければならないとは思っているのですが、教える側である先生は充足しているのですか。今日、日本語指導教室におられた先生はやはり、一定、研修を受けているのですか。また、他にも研修を受けた先生はおられるのですか。
八日市南小学校長	担当教員になってから研修を受けることになります。
市長	一日、40分授業が6時間目くらいまでであると思うのですが、日本語指導教室は、何時間程度実施していますか。
八日市南小学校教諭（日本語指導）	授業の間、ほぼすべての時間に誰かが来ている状態です。
市長	その間は、クラスの他の児童は、別の科目の授業を受けているのですね。その遅れを取り戻すためにどのようにフォローしているのですか。
八日市南小学校長	教科によっては難しいかと思うのですが、なるべく取り戻しがしやすい教科のときに、日本語指導教室に入れるように、担当が工夫していると思います。しかし、実際のところ、在籍している学級で行っている授業のフォローまではできていないと思います。
市長	日本語指導教室はいつからありますか。
八日市南小学校長	八日市南小学校が開校されたときから日本語指導教室はあります。

市長

今年度から、八日市北小学校にも日本語初期指導教室を設置しましたが、今日、見学した教室の状況を見ると、もっと日本語初期指導教室を充実させないといけないと思いました。

アメリカにおける、「英語を母国語としない人々のための教室」いわゆるE S Lスクールでは、日本人だけでなくいろいろな国の子供たちを、午前中に1箇所で集中的に勉強させます。

東近江市では、御園小学校や八日市北小学校にある日本語初期指導教室の拡充をするのが良いのか、今までのように、初期だけを教えて、その後、それぞれの学校の日本語指導教室に通わせるのが良いのか。今の状況を見ると、初期指導が中途半端に終わっているように思えます。

八日市南小学校長

市内でも外国人が多い学校は限られていますので、できれば、本校のように、外国人の児童が多い学校には、御園小学校や八日市北小学校にあるような機能があり、そこには、きちんと、母語が話せる人がいて、コミュニケーションが取れるようになっていくと、ありがたいと思います。

市長

私は、そうすべきだと思っています。だから、御園小学校と八日市北小学校の2校にありますが、まだまだ、足りないと思っています。

八日市南小学校長

保護者の中には、送迎をすることが難しく、通えないという問題も実際にあります。

市長

私の経験では、アメリカの小学校のことですが、専用のバスがあり、E S L専門の学校へ午前中に送って行き、そこで英語を教え、ある程度ついていけると判断した子を個別に見極めます。最低3箇月、長ければ半年の間ですが、3箇月たてば、自分の母校に戻すというやり方をされていました。

教育委員会に、そのようなことができないかと提案し、始めたのが、御園小学校の「いろは教室」なのです。東近江市は、大津市に次いで県で2番目に外国人の人数が多いので、東近江市で成功すれば、県下に広めて、更に県から国へ広めていくべきだと思っています。是非、頑張って、もう少し拡充する方向に持っていけると良いと思います。しかし、通学の問題があるので、各校に置くのは難しいと思います。

制度設計をして、スクールバスや市の行政バスを使い、送迎をすることを考えないといけないと思います。現場の先生の声聞いて、どうあるべきかという将来の見通しを考えて、教育長に報告してほしいと思います。

教育長

それについては以前から内部で議論をしています。1点目は、御園小学校と八日市北小学校に設置している日本語初期指導教室についてです。それを拡充していくことが良いのか、このような人数が多い学校において、そういう機能を持たす方がよいのかという点です。逆に、このように人数が多い学校は、常に、日本語指導教室で、日本語の積み上げができていないといけないということです。要するに、一定のレベルまでしか習得できない、それが、徐々に上がっていくような指導になっていかないのです。今、日々を過ごすだけの日本語能

教育長	<p>力、忘れないであったり、少しずつ覚えるであったりを繰り返しながら、授業についていけるかという、全然、そこまでのレベルには達しない。特に、中学校に行った場合は、なかなか難しい部分があります。</p> <p>2点目は、言われていました送迎についてです。自分の在籍する学校であれば、それだけで、送迎の問題は解消されます。少ない人数の学校は、保護者送迎や日本語初期指導教室で送迎してもらうのが良いのではないかと考えます。</p>
市長	<p>先ほど、日本語指導教室は14校にあると言われましたね。それは、大規模校に限っているのですか。</p>
教育部長	<p>14校というのは、外国籍の子供が在籍している学校の数です。</p>
市長	<p>日本語指導教室を置いている学校は何校ありますか。</p>
教育部長	<p>県費の加配が配置されている学校は、5, 6校です。</p>
市長	<p>全ての外国籍の児童がどこかの日本語指導教室に入れるような仕組みを考えないといけないですね。</p>
教育長	<p>もう1点は、特別支援教室であれば、1クラス8人を超えれば、2クラスになります。担任も2人配置され、あるいはアシスタントも配置するといった人数によるルールがあります。しかし、外国人の場合はないのです。何人いても1人なのです。そういった問題もありますし、また、当然、母国語が何箇国もあれば、それなりの形の指導も必要となります。</p>
市長	<p>私は、子供の成長や学習にもっとお金をかけるべきだと思っています。このような機会に、制度や施設、人員が必要だという現場の声をどんどん出してほしいと思います</p>
教育部長	<p>ありがとうございます。</p> <p>校内教育支援センターについて、御質問等はありませんか。</p>
沖田委員	<p>校内教育支援センターの説明資料の中で、B児とC児は何年かで通常の教室に復帰ができたという結果です。では、中学校はどうでしょうか。小学校低学年からケアをすれば、復帰できるのだと思いますが、中学校の場合には、なかなか難しいと聞いています。</p>
学校問題対策 支援室長	<p>いろいろな子がいると感じていますが、中学生は小学生に比べて、難しいと感じています。ただ、校内教育支援センターができたことで、学校に通えるようになった子は多いです。また、そこに通うことで、次の目標を立てながら、前向きに考えられるようになったと聞いています。ある中学校の例ですが、受験に向けて頑張って勉強している子もいるということで、うれしい成果だと感じています。</p>
沖田委員	<p>小学校の段階できちんと見極めて、手厚い指導をしていくことが非常に大切だと思います</p>

沖田委員	た。
青地教育長職務代理者	<p>初歩的な話ですが、不登校の基準について教えていただけると、聞いている方々にも分かりやすいのではないかと思います。</p>
学校問題対策支援室長	<p>お配りしています庁内向けの広報誌「ひろば」を御覧ください。</p> <p>それに記載しておりますとおり、不登校というのは、ある一定の定義があります。「何らかの心理的、情緒的、身体的又は社会的要因により、児童生徒が登校しない、あるいはしたくともできない状況にあることで、病気や経済的な理由による欠席は除き、年間30日以上欠席をしている状態」を言います。この欠席日数30日を月で割ると、一月当たり3日から4日程度の欠席になります。</p>
青地教育長職務代理者	<p>先ほどの質問にもありましたが、教室に復帰することができた子供がいたとして、その子供がその月から復帰すると、その翌月からは不登校の人数は減るのですか。それとも、そのままの人数で年間の合計となるのですか。</p>
学校問題対策支援室長	<p>年間の合計になります。</p>
青地教育長職務代理者	<p>それでは、途中で状況が変わった子供の数は年間の最終の数でしか分からないのですね。</p> <p>今日の説明を感覚的に聞かせていただいて、現実、この支援センターができたことによって、子供たちの様子は変わってきている。そして、いい方向に向かっていると思うのだけれど、人数の変化は、今のところ分からないと捉えればいいのですね。おおよその人数が具体的にみると非常に分かりやすいと思ったのですが、把握しておられますか。</p>
八日市南小学校教諭（校内教育支援センター）	<p>昨年度は、校内教育支援センターではなく「別室」という形で、子供たちがいました。生徒指導の教員と連携し、月7日以上欠席がある児童については、毎月、報告をしています。また、先ほどありました情報共有シートにも、学期ごとに、対象児童がどれだけ休んだかの記録をつけています。</p> <p>現時点では、昨年度と同時期と比較して、欠席日数や人数が減ってきている状況です。</p>
青地教育長職務代理者	<p>児童については卒業や入学などで変動があるので、総合的に見ればということですね。具体的な部分については、これから検証していくということですね。</p>
児童生徒成長支援室長	<p>先ほど言われた基準の30日という日数は、文部科学省の統計上の数字です。年間で30日以上ですので、今年発表されるのが令和5年度分となります。</p> <p>東近江市は、その結果を待っていませんので、毎月7日以上休んだ児童生徒の統計を取っており、資料のグラフはそれを表したものです。7日以上休んだ児童生徒はケアが必要であるということで、月ごとに細かく人数を把握しています。</p>

八日市南小学校長	不登校の児童数につきましては、令和5年度までは、説明されたとおり、年間30日以上 の欠席者です。令和6年度につきましては、現在、12箇月の内7箇月が過ぎておりますので、 年間の6割が経過していると考え、30日の6割である18日以上、欠席する児童が現時点で20 人いるということです。そして、9割欠席児童については、年間の登校日数200日の内6割で ある120日程度経過していると考え、その9割である108日以上欠席する児童が、現在はいな い状況です。
教育長	各学校から聞き取りをするときに、校長の肌感覚で良いので、児童に行き渋り状態が見え てきたという判断、不登校だという判断をしている児童生徒が、今、何人ぐらいいるかとい う報告をしてもらいます。それは、統計上うまく挙げられません。そのような報告の中、嬉 しく思っていることは、新たな不登校児童生徒が、ほとんど生まれていないということです。 今まで不登校だったの児童生徒が、校内教育支援センターに来られるようになったというこ とも非常に良いことではあるのですが、それでも、不登校のまま継続している児童生徒は少 なくはないのです。しかし、新たな不登校を生まないということをまずは、目標にしようと 言っています。それが叶いつつあるのではないかと思います。
沖田委員	文部科学省の発表では、不登校児童生徒数は34万人、更に増加しているということですが、 東近江市は成果が出ているのですね。
教育部長	ありがとうございます。それでは、ここで、先ほど見学をしていただいた、八日市南小学 校の校内教育支援センター「みなみルーム」について、担当教諭から説明をしてもらいます。
八日市南小学校教諭（校内教育支援センター）	（「みなみルーム」についての説明）
教育部長	ありがとうございます。 それでは、「みなみルーム」の内容も含めまして、ここまでの内容で御意見や御質問があ ればお願いします。
山本委員	一般的に、不登校の子について、教室復帰が最終目的ではないとよく聞きますが、「みな みルーム」の方針としては、今まで来ていなかった児童が、楽しくそこへ来ていれば、それ は成果と言えるのですか。
八日市南小学校教諭（校内教育支援センター）	まずは、学校という場所に足を向けることができたということが、大きな成果ではないか と思っています。これから先、将来のことを考えて、子供に必要な力はいろいろあります。 今まで全く学校に來られていなかったのに、いきなり勉強しろと言われても、それは、なか なかできることではありません。だから、まずは、安心して登校できる場所を生み出してか ら、子供たちが自分で、行動を起こそうという気持ちになっていかないと、次に進んでいけ ないのではないかと思います。時期を見て、子供と相談しながら、先のことを考えてい

八日市南小学校教諭（校内教育支援センター）

きたいと思っています。

山本委員

最近、小学校5年生の児童と話をする機会があり、「あなたのクラスには不登校の人はいますか。」と聞いたら、「いる。」と言っていました。更に、なぜ来ないのかと聞けば、クラス内で汚い言葉を使って言い合いになり、それを聞きたくないというのが原因だったというのです。その子が教室に入りたくない理由が分かっているのであれば、あなたたちは、その子が教室に来やすいようにするにはどうすれば良いかということをクラスで話し合ったりしないのか、と聞きましたら、何もしないというのです。どうしてかと聞けば、その子はフリースクールに行っており、フリースクールの方が楽しいと言うからだと言っていたのです。そんなことがあるのかとがっかりしました。

今のこの仕組み、つまり、学校の中に校内教育支援センターがあることは、素晴らしいことだと思います。最近、元教員だった友人に不登校の話をしたら、以前は保健室通学があったが、対象の子供が多くなりすぎて、それができなくなっているため、それに代わるものが学校にないといけないと言っていたら、正に、東近江市は取り組んでいるという話をしました。教室に帰ることが全てではない、必ずしもそれがゴールではないとは思いますが、学校に足を向けられるように改善した子供を、もう一段階、みんなのところへ帰してやれるような光明が見えたような感じがします。この取組を大事に育ててほしいと思いました。

教育部長

貴重な御意見をありがとうございます。

それでは、お一人ずつ感想をいただきたいと思います。

青地委員よろしくお願いします。

青地教育長職務代理人

ありがとうございます。いろいろな方面から見せていただいて感謝しています。そして、説明も非常に分かりやすくまとまっていて、良い資料もいただき、勉強になりました。

やはり、対応できる先生がいるということが1番だと思います。せっかく子供が来ていても、一人でいないといけない場合や、行きたくても一人で行かないといけない場合に対応できるように人員を配置していただいていると思います。人は人でしか支えられませんので大変ありがたいです。

私が以前からあらゆる場面で思い浮かべるのは、「人が変わるのは、環境と気付きである」という言葉です。これは、男女共同参画で学んだ言葉です。

どれにも当てはまると思うのですが、校内教育支援センターができ、そういう先生おられることは素晴らしい環境だと思っています。そこで、子供たちの中に気付きを作っていかなければいけません。せっかく環境があるので、気付きを作らないといけないのですが、その気付きをどこで作るのかと言えば、やはり、東近江市が力を入れている特別活動や、今の話にもありましたが、学級が楽しい、みんなといえることが楽しいということを、子供が気付いてくれる場面をどこかに作っていけないのではないかと思います。みんなといえる楽しい学級、学校、そういうところから、子供が気付いて「やっぱり、教室に行きたい」、「みんなといたい」という気付きが心の中に育ってくれば、資料の最後にあります「未来」

青地教育長職務代理者	<p>が作られてくるのではないのでしょうか。自分もできる、自分ができるということが、未来につながっていくのではないかと思うので、是非、つなげていっていただきたいと思います。楽しみにしています。</p>
教育部長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、沖田委員お願いします。</p>
沖田委員	<p>学校は、楽しいところでないといけないと思います。先日、県の研修に参加しましたが、学力重視という反面、不登校が増えていると聞きました。全ての子供が、算数も国語も何もかも1番にはなれない、運動会で1番の子もいれば、絵を描いて1番になる子もいます。勉強は嫌いだけれども、体育は好きだとか、音楽が好きだとか、そういう個性を伸ばす個性教育と学力のバランスをどう考えるかということなのです。</p> <p>八日市南小学校の話聞いて、非常にきめ細かい教育をしておられるので、子供たちの持っている個性を伸ばしていけば、学校は楽しいところになるのではないかと思います。勉強が出来なくても運動会でヒーローになれるというような子供を育てることが重要だと思います。学力を伸ばすように言われていますが、多様な個性を持った子供たちに目を配るということは、正に、ここの学校が取り組んでおられることで、非常に良いと思います。その代わり、先生は非常に努力をされていると感じました。</p>
教育部長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、山本委員お願いします。</p>
山本委員	<p>本日の校内教育支援センターの取組についての資料の中で、「不登校の予防策～早期発見・早期対応～」のところに書いています、子供が感じている「教室に入りにくい」、「元気が出ない」、「ちょっと休みたい」などの原因はなんだろうといつも思うのです。その原因に対処しないと、いつまでたっても同じではないかと思います。皆さんも、それぞれ考えておられると思いますが、これまでの方法と考え方を変えて、「個別最適な学び」ということで、それぞれの子供に合わせて対応するのであれば、それだけ先生の数を増やさないとイケなくなるのではないかと思います。</p> <p>管理職夏季研修会で沖田委員の講演をお聞きし、江戸時代の学びや教えにはいろいろなパターンがあったことを知りました。そちらの方向へ向かうのではないかと思います。いろいろな考えが頭の中を回っていますので、こういう場に限らずいろんなところで、御助言いただき考えていきたいと思っています。</p>
教育部長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、神寄委員お願いします。</p>
神寄委員	<p>山本委員の話にもありましたが、不登校の原因が「教室に入りにくい」、「元気が出ない」ということで校内教育支援センターに通っている子は、対応ができて、原因が一つ取り除かれるので良いのではないかと思います。しかし、その前の段階の子、学校には毎日通っており、不登校の対応にはなっていないのですが、汚い言葉が教室で飛び交う状況や友達の何気</p>

神寄委員	<p>なく発せられるきつい言葉など、それらにとっても悩んでいる子もたくさんいると思うのです。そういう子供たちが、取り残されないように見ていければ良いと思いました。</p> <p>教育委員をさせていただいて、そう思えるようになりましたし、保護者として、身近にもそういうことはあるので、余計に考えるようになりました。早期発見・早期対応が学校の先生だけではなく、自分自身も含めて保護者も対応できれば良いと思いながら、今日話を聞かせていただきました。</p> <p>いろいろな原因があると思いますが、実際に学校に来られなくなった子供たちだけではなく、その前の段階の子供も見逃さないように気をつけられればと思います。</p>
教育部長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、南川副市長からお願いします。</p>
南川副市長	<p>桑原先生は、資料に示している関わる人材としては「担当教員」となり、更に「校内教育支援員」がもう1名おられ、基本的に2人で対応されているのですね。今年度、校内教育支援センターを16校に設置すると提案があったときに、それだけの人が集まるのかという話をしました。大変、御努力をいただいたと思います。次年度以降もよろしくお願いします。</p> <p>先ほどの説明で、みなみルームにいるある児童は、去年はずっと欠席だったのですが、今年から来られたということでした。その経緯を教えてください。どのように案内をされたのでしょうか。また、その児童は保護者が送ってくるということですが、教室に行けなくなるだけでなく、集団登校の列にも入っていけなくなるのでしょうか。</p> <p>もう1点、欠席日数が30日を超えれば不登校と定義されます。以前、教育委員会から提案があったのですが、休みたいという兆候があれば、子供たちに年次休暇を与えるとすればどうか。月1回は年次休暇で休めるとなれば、とても気分が軽くなるのではないかと思います。</p>
教育部長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今の南川副市長の質問について、どのように校内教育支援センターに案内されたかを校長先生からお願いします。</p>
八日市南小学校長	<p>校内教育支援センターを開設するということが決まった段階で、担当から連絡をし、実際の部屋を見学してもらいました。児童自身が環境を見て、「ここなら行ける」という見通しを持てたようで、それから毎日元気に来ています。</p>
教育部長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、久田副市長からお願いします。</p>
久田副市長	<p>大変御苦勞をいただいていると思います。</p> <p>私の子供もみんな30歳を超えていますが、私の子供が小学生だった頃は、不登校問題というのは、あまりなかったのではないかと思います。1学年20人までの小規模校でもありましたので、地域みんなで子供を見守っていました。だから、何かあれば他の人から声を掛けていただきました。私も道端で危ないことをしていた子を怒ったことがあります。また、山本</p>

久田副市長

委員が言われました、不登校になったクラスメイトのために、クラスで話し合いをしないという児童の返事に驚きました。子供も「個」が第一になっており、横のつながりや縦のつながりがなくなっているように思います。南川副市長が言われました、集団登校でもそうですが、年上の子が年下の子を注意や指導をするという関係性が、希薄になったのではないかと思います。

私自身は、1学年80人くらいの小学校に通っていましたが、その当時、ガキ大将がいて、誰か1人を標的にし、仲間外れにすることがありました。私も仲間外れにされたことはありましたが、周りの子が、分からないようにフォローしてくれました。だから、学校に行けたのだと思います。このようにみんなで何かできれば一番いいのだろうと思うのですが、今の時代は、難しいのかもしれません。

しかし、校内教育支援センターのような場を作って受け入れることで、徐々に改善していくのではないかと思います。また、社会でも職場に出てこられない人が増えてきていますので、同じ課題を抱えているのだと思います。今後ともよろしくお願いします。

教育部長

ありがとうございます。

それでは、市長から願います。

市長

私からの願いは、逃げずに積極的に原因を追及してほしいということです。先ほど山本委員も言われていましたが、学校へ行きたくない原因がどこにあると思うのです。

複合的に絡み合った原因があると思うのですが、それを取り除かないといけなと思います。先生は、絶えず原因を考えながら対応していただきたいと思います。そして、その原因を取り除くことができれば、子供たちはずっと入ってくるのではないかと思います。先生の力に頼らざるを得ませんのでどうぞよろしくお願いします。

制度や校内教育支援センターを作り、不登校児童生徒の人数が減少してきたことは大きな成果です。大変うれしく思います。しかし、来年度も同じように減少するかどうかは分かりませんので、数年間は見極めないといけなだろうと思います。引き続き、頑張ってくださいと思います。

最後に、私は、日本人には、我慢する力と競争力が足りないと考えています。学校教育だけではなく社会においても、そういう教育が全然できていないのではないかと思います。それはなぜかという、叱れないからだと思っています。もし、少しでも叱ればパワハラになるなどという時代なのです。

先生は、子供たちを叱ってほしい。これは非常に大事なことだと思います。叱られた経験がないため、社会に出てからひどく叱られると、それでくじけてしまうのです。それで、心の病になり、会社を休んでしまうのです。だから、子供のうちにしっかりと鍛えて、忍耐力と競争力を身につけてほしいと思います。そのような教育をお願いします。

教育部長

ありがとうございます。

それでは、最後に教育長から願います。

教育長

本日はありがとうございました。

八日市南小学校の校内教育支援センターは、市内でもトップクラスの取組をしています。

教育長

校内教育支援センターの設置については、私が不登校増加について危機感を持っていたため、学校問題対策支援室長に、何か対応するような案を提案してほしいと去年の4月くらいに言ったことから始まりました。予算もつけていただきましたが、市長も言われたように、スタッフが揃うかという不安感もありました。

設置して3箇月経ってから、部長と室長を中心に、各校を訪問してもらいました。随時報告を受けていましたが、本当に良い報告がたくさんありました。私が思っている以上に、それぞれの学校が工夫をされており、そういった中で子供たちの足が学校に向かっているという印象を受けました。これは、教員みんなが真剣に考え、取り組んでおり、その思いを感じ取ることができるほどの実績が成果として出ているからだと思います。是非、これを継続していきたいと思います。

私は、この予算がついたときに、これは数値として示すことができる結果を出さないといけないと思いました。そうでなければ、議会でも継続予算を認めてもらえないということをみんなに言っています。だから、少なくとも、横ばい、あるいは減少に転じるというところを目指すこと、まずは、横ばいを目指すところをスタートの目標としました。

各学校、それぞれの工夫がありますので、その情報を共有してほしいと言っています。情報を共有する中で、互いの良いところを取りながら、更に磨きをかけていただくことが大事だと思います。これからも継続して、良い方向に向けていきたいと思いますので、御意見等がありましたらありがたいと思います。引き続きよろしくお願いします。

教育部長

ありがとうございます。

皆様から、貴重な御意見をたくさんいただき本当にありがとうございました。

皆様からいただいた御意見等により、共通認識や新たな視点を得ることができたのではないかと思います。本日いただいた御意見を踏まえながら、今後の取組につなげていきたいと思います。

また、本日は日本語指導教室についても、たくさんの御意見をいただきました。また、こちらも今後に生かしていきたいと思います。

それでは、以上を持ちまして、令和6年度第2回総合教育会議を閉会いたします。本日は、どうもありがとうございました。

会議終了

午後3時30分